

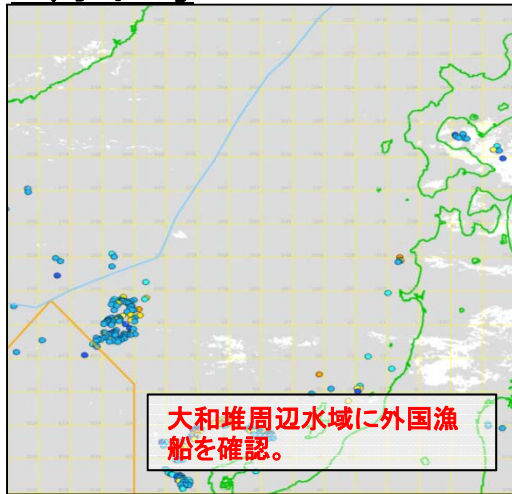
- 日本海の大和堆周辺水域は、我が国の漁業者によりかに漁業やいか漁業が行われており、重要な漁場となっています。
- 同水域の周辺では、北朝鮮籍及び中国籍とみられる漁船が確認されており、一部が我が国排他的経済水域内で違法操業を行っています。



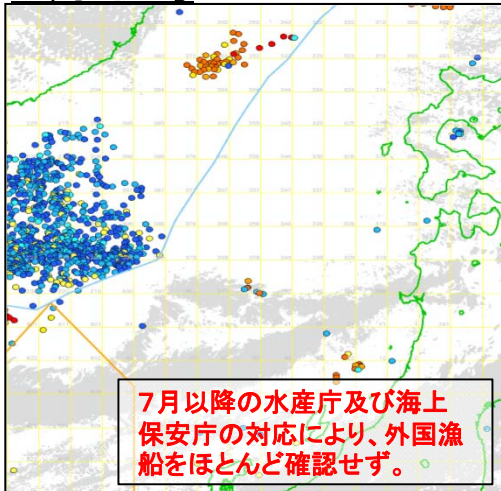
- 水産庁漁業取締船は、我が国漁業者の安全を確保するため、これらの漁船に対応してきています。
- 平成29年7月以降、海上保安庁巡視船も加わり、日本漁船が操業している海域を優先に、北朝鮮漁船等を我が国排他的経済水域から退去させるよう、退去警告及び放水措置を実施しています。
- 大和堆周辺水域で多数確認されていた北朝鮮漁船等については、7月以降の水産庁及び海上保安庁の対応により、8月中旬から9月上旬までの間は、ほとんど確認されない状況になりました。
- 9月中旬以降、再び我が国排他的経済水域外縁付近において、それまでの木造船に加えて、鋼船も確認されるようになりましたが、厳しい退去警告等により、同水域から退去させるとともに更なる侵入を防いでいます。
- 11月下旬以降、我が国排他的経済水域の外側も含め、北朝鮮漁船等はほとんど確認されていません。12月上旬には、我が国いか釣り漁船約50隻が大和堆周辺で操業していました。



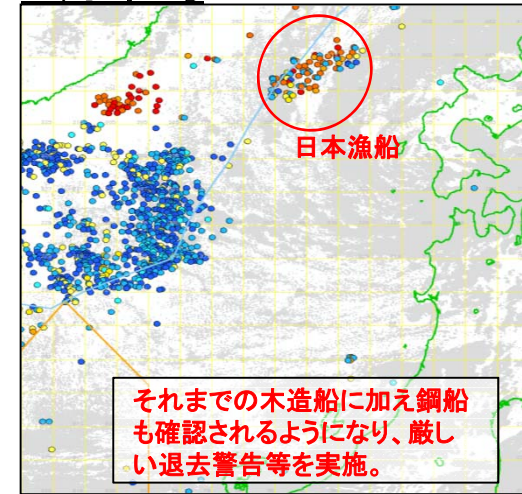
6月下旬



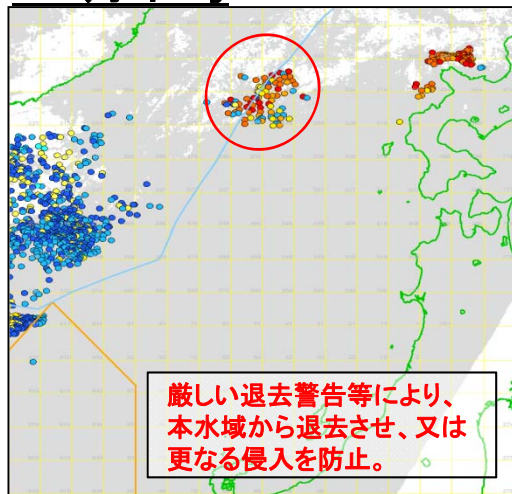
8月下旬



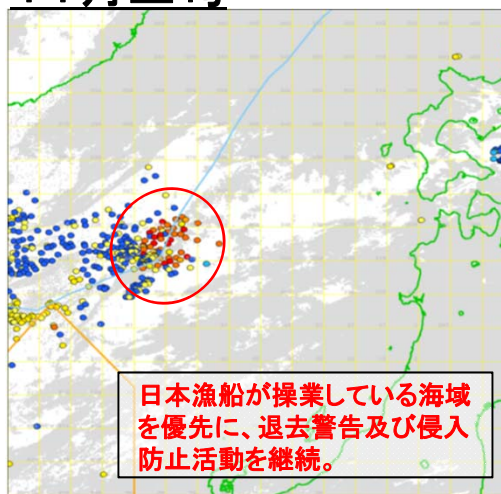
9月中旬



10月下旬



11月上旬



12月上旬



・ 図中の○（丸印）は、夜間の衛星画像から光を抽出したもので、全てが操業中の漁船ではなく、航行中の漁船や一般船舶なども含まれる。
 ・ ○（丸印）の色は、明るさの度合いを表す。明るさ：水色<青色<黄色<橙<赤。
 水色～青色は、北朝鮮漁船等小型漁船、黄色は、北朝鮮漁船等中型漁船、橙～赤色は、中国漁船、韓国漁船、日本漁船と推測。

光点の明るさ	漁船の種類 (推測)
暗	北朝鮮等 小型漁船
↓	北朝鮮等 中型漁船
明	中国・韓国 ・日本漁船